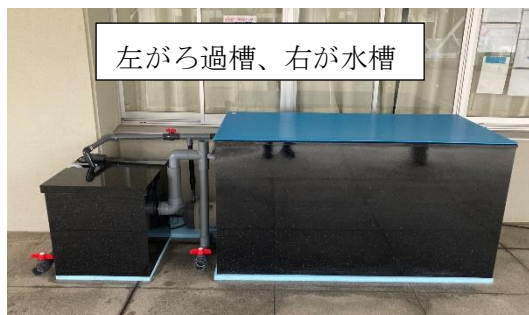


公益財団法人 藤原ナチュラルヒストリー振興財団
2023 年度（第 32 回）高等学校助成結果報告書

香川県立多度津高等学校
教 諭 岡田 智宏



1. 助成品目

F R P 水槽 (180×60×90cm)

ろ過槽 ろ材 かぶせ蓋 ポンプ

2. 本校の状況

本校は多度津水産高校と多度津工業高校が統合した高校で、工業科 4 科（機械・電気・土木・建築）と水産科 2 科（海洋技術・海洋生産）からなる。また、瀬戸内海に面する高校のうち唯一水産科を持つ高校であり、特色のある教育活動を行っており、地域への貢献も期待されている。

3. 生物科学部の活動

そのような環境の下、本校には「生物科学部」という部活動があり、水生生物の飼育管理を行っている。課外活動としての部活動であるため、水産科の生徒だけでなく、工業科の生徒も多く入部している。現在、1・2 年生だけで 22 人が在籍し、うち 9 人が工業科である。水生生物は魚類に限らず、両生類、は虫類、エビ・カニ・昆虫類にまで及び、最大の 2 トン水槽から 20cm の小水槽まで大小 90 ほどの水槽で 100 種類以上の水生生物の飼育管理を行っており、これらを展示して「ミニ水族館」と呼んでいる。特に偶数月の第 2 日曜日には一般公開し、来場者が 2022 年には 2324 人、2023 年には 3914 人、2024 年には 5885 人とコロナ禍以降多くの来場者で賑わっている。

「ミニ水族館」はいろいろな水生生物が見られるので、それだけでも身近に感じてもらえるが、これまでにいろいろなテーマを掲げて展示を行ってきた。水生生物の魅力を感じてもらえることはもちろん、生物多様性の面白さや大切さについて知ってもらえるよう工夫をしてきた。また、体験を通してより身近に感じてもらえるよう「エサやり体験」や「ふれあい体験」を積極的



に取り入れるようにしている。その中でも「ふれあい体験」は来場者に好評で、皮膚の角質を食べるといわれるドクターフィッシュの体験や、カメとしては非常に人なつこく、愛らしい顔つきで、触られることを好むスッポンモドキというカメに触る体験が特に人気がある。スッポンモドキは「ミニ水族館」が発行している「魚朱印」のデザインにもなっており、来場者へのアンケートでも人气が裏付けられている。



スッポンモドキ

ここ2年は体の不自由な支援学校の児童らと交流しながら見学してもらえるようになり、「ミニ水族館」が老若男女、障害者・健常者の区別なく誰でも見学しやすいユニバーサルデザイン化するよう研究し、実践をしてきた。



スッポンモドキの魚朱印

4. 助成の必要性

「ミニ水族館」の人気コーナーとなった「スッポンモドキのふれあい体験」であるが、スッポンモドキは甲羅の大きさが成長すると最大50cmにもなり（現状は甲長30cm程）、四肢がヒレ状で遊泳力のあるカメであり、120×45×45cmの水槽では手狭感が出てきた。また120cm水槽の置き場所が高い位置にあったため、スッポンモドキに触ろうとすると大人でも肘を高く上げて折り曲げた形になり、触りにくく、子どもは丸椅子の上に立たなくてはならない状況であった。



水槽が高い位置でのふれあい体験

5. 助成を受けて

①スッポンモドキの飼育環境として

長さ180cm、幅60cm、高さ90cmのFRP水槽に移したスッポンモドキはのびのびと泳ぎ飼育環境は大いに向上した。FRP水槽は大型のため屋根のあるテラスに設置することになったが、FRP水槽は保温性が高いため冬季でもヒーターの効きがよく、スッポンモドキが熱帯性の生物にもかかわらず屋外飼育が問題なくできている。また、ろ過槽の能力に優れ、飼育水は常に透明感が高く保たれておりスッポンモドキの健康状態も良い。



足踏み式の昇降台と水槽

②ふれあい体験の施設として

FRP水槽の外観は黒くきれいに塗装されており、美観は申し分ない。ろ過槽が飼育水を透明に保っているのでもスッポンモドキが底まで潜っても容易に観察できる。



小さな子どもも体験可

F R P水槽の高さが 90cm であることは大人では全く問題ないが、子どもや車椅子の利用者では高くて全く手が届かないばかりかF R P水槽側面に透明の部分がないため、中の様子も全くわからない。そこで車いす用の足踏み式昇降台を水槽の横に設置した。この昇降台は 40cm 高く持ち上げることができるため、たいいていの子供と車椅子の利用者がF R P水槽の中を覗くことができ、水面まで手を入れることができる（車椅子の利用者は横向きとなる必要があるが）。大きな水槽の中をすいすいと泳ぐカメを見るだけで楽しいし、呼ぶと寄ってくるので嬉しくなる。触れた時には強く愛着を感じる来場者も多いようである。ふれあい体験の場としてとても優れており、F R P水槽を導入することで、水生生物について啓発する「ミニ水族館」がこれまで以上に魅力を増すことができた。



車椅子でも体験可



スッポンモドキにふれる体験

6. 成果と今後の展望

F R P水槽の導入によりスッポンモドキの飼育環境の向上、ふれあい体験施設としての機能向上の効果があつた。これによりスッポンモドキの人気もますます上がった。愛称の「ポンちゃん」もすっかり定着した。

新聞でミニ水族館の記事が掲載され、これを見たNHKが「ミニ水族館」の生中継を行うに至った。最近は県外からの来場者も多く見られるようになり、多度津町の政策観光課とも今後協力した活動が検討されるようになり、地域貢献の幅も広がりを見せている。

来場者数が増え地域からの注目も高まっているため、生物科学部員も自己有用感が高まり、自尊感情が育成されている。また、生物の命を預かり飼育する責任感も高まっている。

7. まとめ

県内で唯一水産科のある高校として地域貢献でき、また、水生生物の魅力や生物多様性について啓発する生物科学部としてより意義のある活動となった。生徒らもユニバーサルデザインの必要性について気づき、実践を行いながら、コミュニケーション能力を高めつつ、達成感・成就感を得ることができた。今後もこの活動を継続していきたい。

8. 謝辞

このたびは、公益財団法人藤原ナチュラルヒストリー振興財団より助成をいただき、施設を充実させることができるとともに、有意義な活動を行うことができました。感謝申し上げます。